

2023 年度 近畿大学学生人権意識調査報告書
(性の多様性編)

2024 年 3 月 近畿大学人権問題研究所

はじめに

教職員によって引き起こされたあいつぐ差別事件の反省を踏まえ、1974年5月に、本学では初めての人権に関する専門機関として同和教育推進委員会が設置されました。さらに同年6月には同和教育研究会が発足しました。前者は今日の人権委員会に、後者は現在の人権問題研究所へとつながっています。学生たちに対しては、同じ年の10月から「同和教育の研究」が教職課程において開講されました。近畿大学における部落問題、人権課題への取り組みはこうして開始されました。

その後、1976年の差別図書『部落地名総鑑』の購入事件をきっかけに、さらに取り組みが充実され、教育活動においては、現在ではすべての学部において「人権と社会1」および「人権と社会2」が開講されています。また、春期、秋期、人権週間に、ビデオ上映と講演の催しが企画され、広く教職員や学生への教育啓発活動の一環として開催されています。

本調査は、学生の人権意識を科学的に把握分析し、本学における人権教育実践や人権啓発活動、研究活動をより効果的なものへと今後さらに発展させるための基礎資料を得ることを目的に実施されたものです。

一口に人権教育・人権啓発といっても、その課題や分野は多岐にわたります。学生たちを取り巻く社会の現実には、さまざまな差別問題があり、人権課題が存在しています。一回の調査でそれらを羅列的に取り上げても、調査から得られる知見は表層的なものにとどまってしまう。したがって、2009年度以来、部落問題、ジェンダー、HIV・ハンセン病、ハラスメント、障害者、外国人の人権をテーマにした意識調査を毎年度実施してきました。今年度は、これまでのテーマに「性の多様性」を追加し、同テーマのもとでの初めての調査を行いました。

本調査が今後の取り組みに幅広く活用されることを期待しています。

最後になりましたが、本調査にあたりご協力いただきました関係者に心からお礼を申し上げます。

2024年3月

近畿大学人権問題研究所

2023年度近畿大学学生の人権意識調査チーム（性の多様性編）

責任者 熊本 理抄（近畿大学人権問題研究所教授）

担当者 佐藤 望（近畿大学総合社会学部准教授）

風間 孝（中京大学教養教育研究院教授）

目 次

I 調査の概要	1
(1) 調査の目的	
(2) 調査対象	
(3) 標本の抽出	
(4) 調査方法	
(5) 調査期間	
(6) 調査項目の選定・作成	
(7) 倫理的配慮	
II 回答者の構成	3
III 調査結果の概要	5
IV 調査結果の分析	57
性的マイノリティをめぐる制度や取り組みに関する大学生の意識 近畿大学人権問題研究所 教授 熊 本 理 抄	
近畿大学生における性的マイノリティ学生の割合といじめ・自殺念慮・未遂の経験について 中京大学教養教育研究院 教授 風 間 孝	
性的マイノリティに関わる健康問題 - 「性の多様性に関する意識調査」に対する一考察 近畿大学総合社会学部 准教授 佐 藤 望	
V 調査票	119

2023 年度 近畿大学学生人権意識調査報告書
(性の多様性編)

2024 年 3 月 発行

近畿大学人権問題研究所

〒577-8502 東大阪市小若江 3-4-1



近畿大学

KINDAI UNIVERSITY